

ルールから見た総合格闘技

Mixed Martial Arts seen from rule

1K06A0811

指導教員 主査 小野沢弘史先生

神田 祐三

副査 樋口満先生

【はじめに】

私が最初に格闘技に興味を持ったのは小学生の時にテレビでプロレスを見たのが始まりだ。屈強な男たちが体をぶつけ合い、豪快な投げを繰り出すその迫力に感動した。以来、プロレスだけでなく、K-1 や、PRIDE といった、さまざまな格闘技を見るようになり、格闘技への憧れの思いが強くなった。その憧れから、大学では格闘技研究のゼミに入った。そこで格闘技について深く考えるようになり、ルールに興味を持った。プロレスも K-1 も PRIDE もどの競技にもルールがあり、ルールによって戦法が変わる。選手はそのルールの中で戦い、ルールによって動きが制限されている一方、選手自身を守られている面もある。特に総合格闘技のルールは他の格闘技よりも制限が少なく、投げや打撃、関節技、締め技というあらゆる手段がルールで認められているのである。そのためさまざまなテクニックが必要となり、あらゆる専門競技をバックボーンにもつ選手が総合格闘技に進出しており、それだけ奥が深く、見所がある。今回、卒業論文を作成するにあたって、総合格闘技とはどういうものなのか、その歴史、テクニック、種類をルールの観点に重点を置いて掘り下げ、探っていく。

【第一章 異種格闘技戦から総合格闘技へ】

現在の総合格闘技というかたちに落ち着く以前には異なる格闘家同士で試合をする場合は異種格闘技戦という形の試合をしていた。しかし、もともとルールの違う格闘技同士が戦うために

は、闘う場所や、ユニフォーム、ルールはどうやって統一するのかなど、多くの問題が浮かび上がる。さまざまな格闘技の中で最強格闘技を決めるとはということなのか、その難しさを異種格闘技戦から見ていく。

【第二章 世界の総合格闘技】

現在の総合格闘技界の形に落ち着くまでにはさまざまなルールの調整が必要となった。初期の大会からのルールの変更点と戦い方の変わり方に着目する。前半では現在までの格闘技ブームを起こすきっかけとなり、世界最大の総合格闘技興行となった UFC について取り上げる。後半では UFC で一気に名を轟かせ、世界の格闘技界に絶大な影響を及ぼしたグレイシー柔術と、ブラジリアン柔術について、その歴史と強さの秘密を探る。

【第三章 日本の総合格闘技】

日本の総合格闘技はプロレスから派生していった。プロレスにおいてもルールであらゆる手段が認められているのになぜ格闘技の試合とまったく異なるものになってしまうのだろう。プロレスと格闘技の違いはなんなのか、そしてプロレスから総合格闘技へと繋がっていく経緯を UWF、修斗、リングス、パンクラス、PRIDE といった団体から見ていく。

【第四章 総合格闘技の比較】

総合格闘技は、一般的にヴァーリトウッドルールを改良したものを採用していることが多い

が、団体ごとにルールの違いがある。ルールの違いを比較し、闘い方の違いを探る。

【終わりに】

ルールの整備やスポーツ化によって、格闘技が一般的に身近なものとなった。格闘技ブームにより、新たに総合格闘技を始めようとする人も多く、競技人口も増えている。総合格闘技はまだまだ歴史が浅いため、今後、さらに新しい技も生まれるだろう。今後の総合格闘技の行方が楽しみである。